

## 【トライアル部門】

### 「にぎわい」

さまざまな提案をいただき、可能性を感じた。ただ、イベントへの参加者数だけが、にぎわいに通じるわけではないだろう。多数が来場した場合は、それに対する対応が、予算等もふくめて必要になる。

### 「芸術性」

独創性のあるアイデアもあり、審査側も刺激を受けた。トライアル部門では、できることはある程度限られるだろうが、芸術性を損なうことなく、取り組んでほしい。

### 「場を活かす」

発表形態によっては、対象区域の中に適当な場がないことは、これまで痛感してきている。とはいえ、ワークショップや制作過程等、あらゆる機会で、区域中の場所を発掘、活用する試みをのぞんでいる。

### 「実現性」

地域との連携が、どれ程とれるのかということが重要と考える。学区内の小学校などが参加し、良い関係が築ければ、これからのARToC10の活動、さらに地域の魅力づくりへの住民参加といった視点からも、大きな財産になる。